

会議録

会議の名称	第3回西東京市地域自立支援協議会 地域生活支援拠点等整備作業部会
開催日時	令和2年11月10日（火曜日）午後6時30分から午後8時まで
開催場所	田無第二庁舎5階 会議室
出席者	長沢委員、小川委員、平岡委員、波呂委員、副田委員、根本委員
議題	地域生活支援拠点等の各機能の整備・運営における今後の課題・方針について
会議資料の名称	資料 地域生活支援拠点等の5つの機能における本市の課題・現状・対応策 参考資料1 第2回会議追加のご意見 参考資料2 ピアカウンセリングについて 参考資料3 西東京市における地域生活支援拠点等の整備に向けたまとめ
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>傍聴1名</p> <p>1 開会 2 資料の確認について（事務局より） 傍聴者1名入室 3 前回会議録の確認 2点ほど修正意見があったため前回議事録に反映 4 議題</p> <p>地域生活支援拠点等の5つの機能における本市の課題・現状・対応策について事務局より資料を説明。</p> <p>○発言者：委員 ニーズの把握は具体的にどのように行うのか。時期的にはどのようになるのか。24時間相談支援体制については他市の事例により利用者が少ない等あると思うが、来年の4月からスタートしないということでは説明責任が生じると思う。部会の意見が反映されているのであれば、いつまでにこのようなことをやる等、もう少し具体的なところを事務局としてどのように考えているのか。もう少し丁寧な説明が必要だと思った。</p> <p>○事務局 作業部会を始める時に、行政主導ではなく、たたき台について沢山のご意見を頂戴した。本日ご意見のまとめということで作成したが、ご意見をいただいたなかで課題、現状、今後の対応策をまとめ、これを地域自立支援協議会に報告させていただき、今後の対応について協議をさせていただき、引き続き丁寧に進めさせていただきたいと考えている。わずかな回数になるが、沢山のご意見をいただいたなかで、私達も把握していなかった課題等も把握することができた。反省もふまえ、地域活動支援センターと十分な話をする場もなかったこともあり、連携が不十分なところで形だけのものを作ってもなかなか進まないのではないかと思った。まずは基幹相談支援センターを両輪でやっていくという体制を整え、3つの地域活動支援センターともどのような連携をとれるか十分に話し合いをさせていただきながら、最終的には24時間の相談支援体制を目指していきたい</p>	

い。具体的な時期については、自立支援協議会で話をし、そのご意見を踏まえ方向性を定めていきたいと考えている。

○発言者：委員

全体的話はそのとおりだと思う。来年の4月から時間をかけ検討し整備していくという流れとなる。24時間相談支援体制をとれない、とらないということでは行政としての説明責任が生じると思う。国から24時間にするよう言われても電話だけを持っていれば良いのか。24時間相談支援体制はスタート時点では採用はしないとしたが、他市の事例等をみて見直しを行い変えていくところなのか。そのようなところが分からなかった。24時間相談支援体制に紐づいた仕組みがないと、混乱や不利益が生じるという考えもある。スタート時の意思決定やサービス提供をする行政側としてなぜそれを採用したのかは、委員として聞きたいところである。

○事務局

第1回の会議の際、色々な市が始めているなかで、西東京市の現状として何が必要か考えていかないといけないというご意見をいただいた。それに応えられるようなニーズの把握がまだできていない。たたき台以上のご意見をいただいたが、そのご家族、ご本人のニーズを把握し、統一的にバランスよく、どこを最優先としていくかを考えていく。ご意見を地域自立支援協議会にご報告させていただき、そこでまたご意見を頂戴しながら策定していきたいと考えている。

作業部会は今年度終わりになるが、ニーズの把握というところでは、ご家族、当事者、家族会等のご意見を賜りながら引き続き丁寧に進めていきたいと考えている。

○発言者：委員

コーディネーターを配置するということが書いてあるが、加算が重要だと思った。機能強化、緊急時受け入れも加算が該当している。この加算を抜きにしてコーディネーターをつけるという方針なのかと思ったため、実際にどのように考えているかお聞きしたい。

○事務局

方針を作成する中で、加算については予算に関わってくるので次の段階だと考え、検討すると回答させていただいた。

○発言者：委員

加算が分からないとあり方も難しいと思う。コーディネーターの配置で加配ではないと考えてよろしいか。

○事務局

加配ではなく現状の配置でと考えているが、加算については、方針を定めることと関係ないのではないかと。その後の話をしても本会で変わる可能性もある。方針を定めるにあたっての、本日の資料に対してのご意見をいただきたい。

○委員

他の職員も余力を残して仕事をしているわけではない。コーディネーターの役割を持つ

ということを前提とするというのは気になるところである。お金のことは、事を進めるにあたり何が根拠となるかというところ、国は加算を使うことを前提としていると解釈しているが、それがなく兼任でということとなると本市の現状としてここに書かれていても良いかと思う。

○委員

本会にあげる資料は、参考資料3となる理解でよろしいか。

○事務局

今回方針を作業部会で決めることが難しかった。この作業部会で議論させていただいたことをふまえて親会に報告させていただきたいと思っている。委員名が入っているところまでをそのままお示しするかはよく検討させていただきたいと思うが、とりまとめと、皆様からいただいたご意見を報告させていただきたいと考えている。

○委員

これがまとめということではない。全体をとということか。

○事務局

行政としてのとりまとめは現状としてこのような内容となるが、皆様からいただいたご意見もあり、全てを反映できているかどうかというところもあるため、もう少し整理するかもしれないが、親会には議論を上げていく。

○会長

ご意見がないため次に進めていく。

《 休憩（換気） 》

○会長

資料についてのご意見はあるか。なければ、事前質問についてご意見はあるか。事務局から補足説明があればいただきたい。

○事務局

参考資料について事務局より説明

○委員

質問の意図を説明したい。図を作成するときに西東京市の基幹相談支援センターは相談支援事業を行っていないので、それにより置く場所が変わると考えた。加算が払われる可能性があるれば、地域活動支援センターであれば加算がつく。基幹相談支援センターは相談支援事業を行っていないため加算がつかない。この仕事の仕方はどうなるのかという単純な疑問。コーディネーターでそれを解決していくのかと思いつきの質問をしている。それで加算のことを質問した。質問の意図を分かってほしくて説明をした。19番と20番はひとまとめの質問となる。基幹相談支援センターが機能していないという意味合いではない。この形であればという意味合いである。

○事務局

趣旨はよくわかっている。自立支援協議会で議論いただく話ではないが、他の自治体では、コーディネーターを配置していないところも地域生活支援拠点として位置付けて地域みんなで課題に取り組んでいるところもある。どのような形が西東京市に適するのかは今後検討していきたいと考えている。そのような場合も個別で加算をつけお金を支払っている・していないというところは、今後調査をしながら全体を整理した上で、自立支援協議会にて議論をしていくことだと考えている。調査もしていないなかでこのような形でと示させていただいたなかで、3回の議論となってしまったため委員のご意見を踏まえて今後十分に検討してまいりたい。

資料に示している対応策や本市の現状のなかで何か不足しているもの等ご意見があれば、自立支援協議会にあげる前に伺いたいと思う。

○会長

ご意見はあるか。実際の資源であるのではないか、できているのではないか等のご意見があれば、ぜひ伺った上で本会上げていただけるということである。

○事務局

もしなければ、ピアカウンセリングの資料に移りたい。

○会長

参考資料2について時間のないところだが、委員からの提出があったもののようにである。前回議論にあがった、ピアカウンセリングについてのご意見があがっていたところで、委員からの資料をいただいている。

○委員

全くやっていないと思われてしまうと思い、昨年からSSTと就労シンポジウムを就労支援センター一歩と行った。ピア活動を実際はしていると思っている。あえて書かせていただいた。職員の間ではSSTも来年度ネーミングを変えて、SSTプラス事業所オリジナルを加えていければよいかと思っている。障害者サポーター養成講座を行っているので、事業所のメンバーの中でそういうことに関心がある方もいて、そういった方に障害者のピアサポーターとして役に立ちたいという気持ちを市で後押しして頂けたらと思案として出させて頂いた。

○会長

えぼくくでもピアカウンセリング事業を今後進めていくところであり、市のペアレントメンター事業と併せて頂いた提案からピア活動を広く展開できるようなことができればと思う。

○事務局

他の2つの地域活動支援センターでは同じようにメンバー同士の助け合いの取り組みをされているのか。

○委員

身体障害の場合、障害が多岐に渡っているが、友達同士で助け合おうということはある

る。実際、研修に出したい、育てたいと思っている方はいる。他の地区でピアカンの研修を行っているところもある。遠くに行くことができないため、市内でできたらという思いはあるが、障害の種類が多岐に渡るため、お互いが障害の理解をする段階に至っておらず、育てていくことはできていない。友達を作りそこで救われている人はいる。

○委員

知的障害の方にSSTをやろうとしたことはあるが、知的障害と発達障害とは課題が異なり、本当は発達障害の理解や社会でやっていくにはどうしたらよいかなど話し合えば一番だが、事業所に来ている方の大半は知的障害の方であり、なかなかSSTが上手くいかなかったということがあった。発達障害の方にどのようにSSTを進めていくかは今後の課題ではあるが、やっていきたいと思う。

○会長

ご意見はあるか。なければその他事務局から報告や説明はあるか。

○事務局

平日夜の忙しい時間に会議に出席しご意見をたくさん頂いたことを感謝する。頂いたご意見を自立支援協議会の本会で挙げさせていただき、ご意見頂いたものを踏まえた方針をまとめ、当市のニーズも諮りながらどういう形で進めていくか引き続き検討していきたいと思う。今後も忌憚ないご意見を頂きたいと思う。基幹相談支援センターと地域活動支援センターの連携は地域生活支援拠点の整備の要となるところであり、今後もこのような機会を設けていきたいと考えている。

○会長

定刻となったのでこれで閉会とさせていただきます。